



ダイラタンシー現象を実験する児童ら＝袋井市の豊沢ふれあい会館で

科学実験面白いね

静岡理工科大生が親子教室

袋井

袋井市の静岡理工科「科学実験工房」大学生を講師に、同市が、同市豊沢ふれあいの小学生らが実験を楽

会館であり、高南小学校児童と保護者ら約三十人が参加した。

容器の水に片栗粉を加えてかき混ぜて作った物体が、握っているときは固いものの指を放すと液体状に戻ってしまう様子を実験。これを「ダイラタンシー現象」と呼ぶことを学んだ。

洗濯のりに薬剤のホウ砂溶液を混ぜてかき回して、スライム（粘着質の液状体）を作り、ミニボールにして絵の具で色つけをする実験もした。

（飯田時生）